



平成 28 年度 船橋市商店街まちづくり・賑わい推進モデル 事業事例集



平成 28 年度にモデル事業
として採択された 11 商店会の
取り組みを紹介します！！

ふなばし産品ブランド
PR キャラクター
目利き番頭 船えもん

船橋市 経済部 商工振興課

目 次

事例No.1	西船橋商店会	
	西船橋チャリティ百円商店街（全国初夜の百円商店街）	・・・ 1
事例No.2	丸山中央商店会	
	七夕まつり	・・・ 7
事例No.3	海神商店会	
	かいじん、頑張るソウ	・・・ 11
事例No.4	松が丘バス通り商店街	
	「楽しい松が丘ハロウィン」祭り	・・・ 17
事例No.5	ひがふな SHOW 展街	
	ひがふなフェスタ 2016 東船橋駅誕生 35 周年記念	・・・ 21
事例No.6	習志野台商店街振興組合	
	きたなら元気！	・・・ 27
事例No.7	船橋 FACE 商店会	
	船橋フェイス商店会×NPO 法人ステーション	
	～文化と商業の融合を目指す共同事業～	・・・ 33
事例No.8	北部地区商店会連絡協議会	
	北部商連ドリームスクラッチ	・・・ 37
事例No.9	船橋市前原商店会	
	子供たちとつくる Xmas	
	～Xmas オーナメントコンテスト～	・・・ 41
事例No.10	アイラブふなばし実行委員会	
	夢ふるふなばし	・・・ 45
事例No.11	芝山団地商店会	
	関東初！芝山リアル人生ゲーム	・・・ 51

西船橋商店会
西船橋チャリティ百円商店街（全国初夜の百円商店街）

1. 実施団体概要

商店会名	西船橋商店会		
所在地	船橋市西船 4-22-1		
設立年月日	昭和 33 年 11 月 10 日	会員数	122 人
最近の活動	【クリスマスイルミネーション事業】 ・西船橋商店会青年部にて駅前にクリスマスツリーを建設 ・点灯式を地域合唱団とコラボ実施 ・SNS を使用したフォトコンテストの実施 【百円商店街商店街事業（平成 26 年度より）】 ・商店会会員プラス外部出店含め 20 店舗程が参加 ・第二回目にしてお客様 8,000 人が集まるイベント。		

2. 連携団体について

連携団体①	名称	東京経済短期大学
	活動内容	教育
連携団体②	名称	NPO まちアート・夢虫
	活動内容	情緒豊かな明るいまちづくりを目指して、演劇、美術、音楽、舞踊などの鑑賞、公演、ワークショップ他、さまざまな育成支援活動を行う。 また、芸術活動の場として、そして人々の交流の場としての拠点(芸術ひろば)を作り、地域芸術の振興と活性化による文化発信も目指す。

3. 実施事業について

背景	（１）地域の特徴 JR 総武線・武蔵野線・東京メトロ東西線・京成線のハブステーションである西船橋駅前に位置し、駅前から国道 14 号線までのエリアで形成されている。街区内に 122 店舗ある中、飲食店が多く、スーパーや買い廻り品の店舗で形成されており、多くの来街者で賑わいを見せている。 （２）周辺地域の概況 地元住民の他、駅利用客や中山競馬場利用客の姿が目立つ。商店会の中心半径 500 メートル圏内には 2 万人を超える居住者がおり、昨年には、その購買力をターゲットとした大型スーパーが進出している。 また、近隣には、市役所出張所や郵便局・幼稚園や小学校があり、東京のベッタタウンとして利便性が高く、人口は現在も増加傾向にある。
----	---

	(3) 来街者の概況 日中は地元に住んでいる利用客が多いが、通勤・通学者、JR 線から京成線への乗り換え客なども通行している。顧客層は、小売業の店舗は主婦層が多く飲食業は住民の他ビジネスマンや OL の姿も目立つ。 (4) 地域住民のニーズ 居酒屋等が建ち並ぶ環境にある一方で、生鮮食品・物販店が少ないため、地元利用客の集客力に乏しい。特定のイベント以外に商店会店舗と地域住民との関わりが少ないため、商店街や商店の情報が求められている。 (5) 課題・問題点 商店会に買い物や食事に来るお客様は、競馬場利用客や通勤者等、ほかの地域の人が多く、地元の住民への認知度が低いため、商店会のイメージアップと認知度の向上が課題である。 (6) 事業の目的 本事業を通じ、地域住民や近隣から訪れる方を対象に、商店会のお店や商品の情報を発信する事で商店会や各お店の認知度と来店者の向上を図る。また、地域と連携団体との交流を持ち課題解決を行う事で、地域商業を元気にする事を目的とする。 【新規要素】 全国初の夜の百円商店街を実施。また、従来 14 時からの開催時間を正午から拡大。また、近隣にある東京経済短期大学と連携し、スタッフとして参加し協力してもらうことにより、商店会と短期大学生で運営するイベントで地域住民のほか、若者世代の取り込みと、SNS による拡散を図る。
目標	(1) 歩行者通行量 基準値 17,330 名（平成 28 年 3 月 2 日調査） 目標値 17,677 名 ※ 会員商店会で所属する各店舗の来店者向上として基準値から 2%増加を目標としたい。本事業の実施と並行し、地域内の商店会と連携した個店の魅力向上事業を実施させる事で商店街に新たな顧客増加を図り、歩行者の増加につなげる。 (2) 空き店舗数 基準値 0 店舗 目標値 0 店舗 ※ 歩行者通行量の増加により、商店街区内が購買機会等における魅力向上が図られる。継続した商業の活性化事業を実施し空き店舗ゼロの地域を維持する。
内容	参加する店舗に 100 円の商品やサービスを提供する事でお店への“来店機会”と“お客様との交流”を深める事業で、現在、全国で 120 か所以上の商店会で開催されている。 当商店会では、会員の多くが飲食店という特長を活用し、全国初の 12 時から 20 時まで行う夜の百円商店街を実施する。

	地域 NPO 法人や近隣の短期大学と連携することで、西船橋地域の活性化を図り公益的な要素を取り入れる。 また、参加店舗の情報を集めたチラシを作成し、イベントの情報を発信することで、参加者と各店舗の顧客拡大・商店会活動の周知を図る。
スケジュール	5月中旬 東京経済短期大学打合せ（連携の協力依頼） 5月下旬～ 百円商店街理事会会議 百円商店街考案者齋藤一成さんと呼んでの勉強会 6月下旬 参加店舗募集〆切 7月初旬 チラシ製作 7月中旬 新聞折込 7月18日 百円商店街実施 7月末 事業の決算・商店会内報告 関係団体へ事業終了の報告
実施体制	<pre> graph TD A[西船橋商店会] --- B[NPO 法人夢虫] A --- C[ニコふな] A --- D[東京経済短期大学] </pre> （各連携団体の役割） ・NPOまちアート・夢虫：子供カフェを実施 ・ニコふな：“昔の遊び”を実施 ・東京経営短期大学：事業の広報・当日のボランティアスタッフ （商店会の実施体制） 事業統括・連携団体担当を会長が、副会長・広報担当が会長補佐に当たり、理事会で事業の運営を進める。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	会員商店会で所属する各店舗の来店者が増加した。 また、地域内の商店会と連携した個店の魅力向上事業を実施させる事で商店街に新たな顧客増加となった。 さらに、商店会の活動への賛同店（イベントへの参加希望店）が増え、新たに2店舗の商店会加入があった。
反省点・ 苦労した点	開催日が7月だったということもあり、熱中症になった方が出てしまった。
今後の 事業展開	商店会費で開催ができるよう内容を工夫し、イベントへ展開する。また、NPO 法人や学校法人とは、事業終了も連携を継続し、より様々なイベントや地域活性化事業を展開する。

丸山中央商店会 七夕まつり

1. 実施団体概要

商店会名	丸山中央商店会		
所在地	船橋市丸山 3-7-15		
設立年月日	昭和 59 年 11 月 1 日	会員数	9 人
最近の活動	丸山中央商店会の一角にて丸山を元気にする会と協力し、隔月に夕市を開催。		

2. 連携団体について

連携団体	名称	丸山を元気にする会
	活動内容	丸山で営む商店、企業、住人からなる 30 名の会で、丸山中央商店会と共同で夕市を開催する他、ハロウィンウォークラリー、サイエンスショーのイベントを行っている。今年は新たに小学校の屋上で初日の出を見るイベントを行った。

3. 実施事業について

背景	近年の大型スーパーの出店等により、商店街が厳しい状況となり、数年前まで行っていた丸山中央商店会主催の夏の夕市の開催ができずにいた。 しかし、地域住民から再び活気のある夕市を行ってほしいとの声が入るようになったことから、地域のみなさんの夏の思い出に残る夕市を復活したいとの思いで、昨年、小規模ながら夕市を開催したところ大きな反響があった。 今年は、昨年の反響を踏まえ、さらに大規模な「七夕まつり」と題して開催を計画している。
目標	地元に根付くコミュニティの確立、また、祭りを通じ、地元の商店との交流も深め商店街の活性化を図る。
内容	平成 28 年 7 月 30 日（土）丸山公園にて 15 時～20 時（雨天の場合は翌日）、「七夕まつり」と題し開催する。事業の特徴としては、商店会と丸山を元気にする会のメンバーを中心とした飲食・ゲームコーナーの出店に加え、スイカ割り大会を開催し、子供から大人まで楽しめる企画を用意する。 商店街通りでは、1 週間ほど前から吹き流しなどの七夕飾りを設置し、お祭りムードを高める。また当日には、公園内に笹と短冊を用意し、他で行われている盆踊り等にはないお祭りを演出し差別化を図る。 町会や地域団体にも積極的に案内を送付し周知を図る。地域住民への告知においては、6 月末頃より商店や町会掲示板などにポスターの掲示を行い、また、当会員によるポスティングも行うことでより多くの来場促進を図る。

スケジュール	4月 セタ実行委員会の立ち上げ 開催まで定期的に会議を行う（予算、企画、出店・出演オファーなど）。 6月 広告物（チラシ・ポスター）準備（末頃よりポスター掲示） 7月上旬 チラシポスティング開始。 7月中旬 商店街吹き流し準備（1週間前に設置） 7月29日 公園内に提灯等の前日設営 7月30日 8時～テント、装飾、出店準備 15時スタート 7月31日 9時～片付け（周辺のゴミ確認など）、レンタル品返却
実施体制	丸山中央商店会と丸山を元気にする会から、セタ実行委員会を選出（8名）、予算立て企画の会議を4月より定期的に実施。（月、最低2回）

4. 事業の様子







5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	子供から高齢者まで、地元の人達が楽しめるイベントになり、今後、継続して行うことで地元に根付くコミュニティが確立していくと確信しました。 また、この活動を通じて商店会、丸山を元気にする会のアピールも含めて行うことができ、さらなる活性化を図っていきたい。 このイベント後、丸山を元気にする会の入会者も数名あり、会の活動に賛同する方が増えたことも心強い成果となった。
反省点・ 苦労した点	予想を超える来場があり、公園内はもちろん、公園外での交通事故などの防止に最善を尽くした。消防団やPTA、アルバイトの動員など協力を仰いだ。 また、公園付近の住人に対し、事前に挨拶廻りを行うほか、お祭り終了後のゴミ拾い等、配慮を徹底した。
今後の 事業展開	昨年、小規模ではあるが、夕市を行い、来場者から今年も行っていきたいとの声が多く届き、手ごたえを感じた。 今後、重要となってくるのが、いかにこの事業を継続していくかということで、引き続き丸山を元気にする会と協力し、住民の若い力と斬新なアイデアで地域の活性化を図っていきたい。

海神商店会 かいじん、頑張るソウ

1. 実施団体概要

商店会名	海神商店会		
所在地	船橋市海神 4-11-7		
設立年月日	昭和 27 年 4 月 1 日	会員数	26 人
最近の活動	・年 2 回（春・秋） 朝市の開催 ・まちゼミの開催（平成 27 年度） ・商店街パンフレットの製作（平成 26 年度） ・盆踊りの開催（平成 25 年度より） ・中元・歳末の売出し ・街路灯の建替え（平成 19 年度） ・電球の LED 化（平成 22 年度）		

2. 連携団体について

連携団体①	名称	4、5 丁目有志会
	活動内容	西海神小学校の小学生とのレクリエーション活動（バーベキュー等） バザー、地域活動など
連携団体②	名称	海神 4、5 丁目自治会
	活動内容	地域活動（イベントや防犯パトロール、回覧等） 防犯カメラ設置
連携団体③	名称	北青会
	活動内容	北一町会の青年会 地域パトロール（夜回り）、地域イベント（餅つき等）
連携団体④	名称	婦人会
	活動内容	ゴミゼロ活動、盆踊りの参加 食事会

3. 実施事業について

背景	(1) 商店会地域の特徴 京成線海神駅前の通りに位置し、小売・サービス業で構成され、地域の住民を対象とした日用品の提供に寄与している。 徒歩圏内に、公民館があり利用客が商店会を通行する。一方、近隣の大型ショッピングセンターの進出により、商業競争は厳しい状況となっている。 (2) 来街者と顧客層の状況 商店街区内に京成線海神駅があり、朝と夕方には通勤や通学者の姿が目立つ。顧客層は、主に地域の主婦層が多く次に通勤者や通学者となっている。 (3) 地域住民のニーズと課題・問題点 これまでは、最寄品や日用品など地域住民向けの店舗が多くニーズに対応してきたが、大型ショッピングセンターの進出により、商店会の売上げは減少している。会員や来店するお客様からの意見から、大型店にない商店会・商店の魅力の発信が求められている。 商店会では、朝市の開催や商店会のパンフレットを作成するなど、商店会の情報発信や地域団体との交流を始めている。しかし、地域団体の関係者や商店会会員から地域のコミュニケーションはまだ不足しているとの意見も多数聞いている。また、街区周辺の人口が増加しているなかで、新規住民による商店会の認知もまだ低い状況にある。 以上のことから、地域と協働した事業の実施と商店会に来店する機会と情報の発信が今後の課題として捉えている。
目標	(1) 商店街の来街者向上（通行量調査の実施） 指標値 平成27年8月27日調査時 3,945 名 目標値 事業実施後 4,024 名 ※ 本事業実施、並びに会員の継続した努力により各商店街・商店の認知度、購買機会、来街者の増加を図る事で商店街への来街頻度の増加を指標数値から2%増加の数値目標を設定している。 (2) 来店者の向上（会員店向けアンケートの実施） 指標値 前年の来店者数 100 目標値 前年と比較した来店者数 105 ※ 事業実施後に、会員向けのアンケート調査を実施する。歩行者通行量の増加により、商店街区内が購買機会等における魅力向上が図られる。その結果、来店者の増加を予測。
内容	(1) 海神サマーフェスタ 海神地区夏のメインイベントである「海神盆踊り」を地域の自治会や婦人会・青年会と連携し、「海神サマーフェスタ」として海神商店会街区内特設会場で盆踊りや音楽・各種ブースを設置し賑やかな空間を提供する。 また、イベント参加者へ「商店会パンフレット」と「海神スタンプラリー」のチラシを配布し、商店会と商店会事業の紹介をおこなう。 イベントのチラシは、商店街の周辺に配布することで、商店会周辺の地域住民を対象に商店会の情報を伝える事ができる。

	（２）海神スタンプラリー 周辺の地域の住民を対象に、海神商店会や街区における回遊の向上と、来店者増加や交流を目的に「海神スタンプラリー」を実施。 スタンプラリーのチラシを使用し、商店会参加店で買い物するとスタンプを押し、一定の数のスタンプでガラポン等の景品を提供する。 「海神サマーフェスタ」イベント当日にチラシを配布するが、イベント時や事前告知として連携団体による周知協力を頂き、積極的に情報を発信する。 各お店に訪れたお客様に対する営業活動を通して、顧客の増加や、商店街区を歩く人の増加を図る。 【新規の要素（海神サマーフェスタ）】 ・音楽ライブの開催 盆踊りの他、音楽ライブの要素を増やし幅広い年齢層が楽しめるイベントとする。商店会並びに周辺地域では、新しい住民層の方もおり、イベントを通じ地域内や商店会との交流を強く結びたい。その為には、盆踊りの要素に加えライブ形式の音楽を発信する事で、幅広い方々が参加しやすいイベントにしていきたい。 ・関係諸団体による連携協力 これまでも、地域内イベントにおいて商店会と連携してきたが、今回のサマーフェスタ事業については、会場の設営やブースの出店、スタンプラリーや商店会パンフレットの配布協力等多岐にわたり諸団体からの協力連携の体制を敷いている。
スケジュール	7月 事業実施体制の確保 サマーフェスタ・スタンプラリーの準備 8月 サマーフェスタの開催 スタンプラリーの情報発信 9月 スタンプラリー実施期間 11月 スタンプラリーの抽選会（他のイベント時に開催予定） 12月 事業終了 1月 支払、精算の確認 2月 実施報告書の提出（事業完了予定）
実施体制	（本事業の実施体制） 会長が事業全体を統括し、海神サマーフェスタと商店会 PR 誌の発行は各副会長がそれぞれ担当する。 なお、進捗状況については、商店会役員会にて状況を把握しスムーズな実施を図る。 （他機関との連携） 連携先団体と、企画・運営より役員との打合せを行う。自治会青年部による会場設営の協力・出店の参加、自治会婦人会と商店会女性メンバーによる踊りの講習会を開催する。また、連携先団体から消費者目線の意見を聞き、効果的な商店会パンフレット・スタンプラリーの配布について検討・実施する。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	商店街の来街者について、事業の実施後、目標としていた 4,024 名を超え、4,172 名の方が訪れ、来街者の向上につなげることができた。 盆踊りだけだったイベントを、今回、スタンプラリーもあわせて実施した結果、お店の売り上げにつなげることができたことが良かった。 スタンプラリーを実施したことで、朝市をイベント中におこない、会員もイベントに対して感心を強くできた。
反省点・ 苦労した点	スタンプラリーで参加できない（印を押せない）商店ができてしまう。次回は各店でスクラッチを実施しようと思います。
今後の 事業展開	今回、来街者の数は目標を達成したが、来店者の向上については目標値に近い数値にとどまったため、地域との連携を密にしていきながら、商店会や各お店への来店する機会の増加に効果のある事業を計画実施していきたい。

事例No.4

松が丘バス通り商店街 「楽しい松が丘ハロウィン」祭り

1. 実施団体概要

商店会名	松が丘バス通り商店街		
所在地	「楽しい松が丘ハロウィン」祭り		
設立年月日	昭和 50 年 1 月 1 日	会員数	38 人
最近の活動	・朝市の開催(年 2 回) ・スタンプカード事業(松スタンプ) ・スタンプ事業による日帰りツアー ・一店逸品運動(平成 25 年より) ・街路灯の建替え(平成 26 年) ・中元、歳末の売出し		

2. 連携団体について

連携団体	名称	松が丘地区社会福祉協議会
	活動内容	・ミニディーサービス ・ふれあい・いきいきサロン ・地域福祉まつり ・ボランティア育成 ・子育てサロン ・広報誌の発行 ・助けあい活動 ・シルバー料理教室 ・ゴミ処理券の取扱い ・車イス貸出 ・地域内街中清掃

3. 実施事業について

背景	(1) 地域の特徴 新京成線高根木戸駅・北習志野駅の沿線地域に位置し、市道飯山満古和釜線のバス通り沿い全長約 900 メートルの商店街。最寄品・買回品を中心に構成される近隣型商店街として、地域住民の生活に密着している。 (2) 周辺地域の概況 近隣に小中学校、街区内に郵便局、銀行、スーパーがあり、地域の生活拠点となっている。また、バス停が複数あることから、最寄駅からの移動に使われている。最近では、高齢者人口が増えてきており、周辺地域に福祉施設が増加している。 (3) 来街者の概況 朝と夕方は、街区内のバス停を利用する通勤・通学者の姿が目立つ。日中は近隣住民(主婦・高齢者層)の買い物客が大部分を占めている。 (4) 地域住民のニーズ 地域の高齢化・近隣地域に新興住宅地が増加するなか、地域住民との連携と商店街の利便性向上が求められている。 (5) 課題・問題点 車圏内に大型店が複数あり、商業環境が厳しくなるなか、商店街の活性化
----	---

	は急務となっている。これまでも地域と連携した事業は実施しているが、地域の高齢者や新規住民にも対応した利便性の高い商店会化が望まれている。 (6) 事業の目的 商店会各店が独自のサービスや商品を提供・PR する事で個店の魅力を創出する。
目標	・歩行者通行量 基準値 4,541 人（平成28年3月25日調査） 目標値 4,586 人 ※ 歩道が拡張されたことにより、地域住民が安全に回遊できるようになった。このイベントを通じて住民・商店会に回遊してもらうと同時に、認知してもらうことで、事業実施前と比較し、通行量を実施前の1%増加を目標に設定したい。
内容	社会福祉協議会・地域住民・子供達が一体となる「楽しい松が丘ハロウィン」祭りを開催し、商店会の街並みを散策して楽しいイベントを堪能してもらう。 連携団体である社会福祉協議会と協力し、レシートくじから告知を行う。また、「松が丘ハロウィン祭り」のスタッフとしても協力してもらい、ハロウィン事業においても連携し運営を行う。 ・レシートくじ期間の開催 ・みどり公園において子供達へのお菓子プレゼント ・船橋まちかど音楽ステージの開催 ・商店街区内を仮装参加者が練り歩き
スケジュール	8月 商店会役員会の開催 9月初旬 連携団体との打合せ（事業内容について） 9月中旬 チラシデザイン完成 下旬 事業の準備 10月 1日 レシート販促期間（15日まで） 10月15日 「楽しい松が丘ハロウィン」祭り開催 抽選にて景品プレゼント 1月 報告書の提出 2月 連携団体との反省会
実施体制	松が丘バス通り商店会 松が丘地区社会福祉協議会 ・レシート集めとハロウィン祭り告知 ・10月15日「楽しいハロウィン」祭り事業

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・良かった点	第1回ハロウィン祭りに多数のお子様、お父さん、お母さんに参加いただき、子供達の楽しそうな笑顔を見ることができました。 また、音楽ステージについても皆さんが大変楽しそうにしておりました。大盛況に終わることができ、商店会として素晴らしい事業ができたと思います。
反省点・苦労した点	レシートセールについては、5,000円のお買い物で1回の抽選を行い、皆様方から喜ばれましたが、次回は金額のハードルを下げて、2,000円で1回の抽選を行いたいと思いました。
今後の事業展開	商店会の役員会・諸会議に連携団体にも参加してもらい、来年度以降についても継続した連携事業を実施できるようにしていく。 また、今後は、商店会事業費で実施できるように予算段階から協議していく。

ひがふな SHOW 展街 ひがふなフェスタ 2016 東船橋駅誕生 35 周年記念

1. 実施団体概要

商店会名	ひがふな SHOW 展街		
所在地	船橋市東船橋 4-32-2 パーグリーンソ 1 階		
設立年月日	平成 28 年 4 月 1 日	会員数	31 人
最近の活動	JR 東船橋駅誕生 35 周年記念イベントの開催を視野に入れたプレイベントとして、平成 27 年 10 月に「ひがふなフェスタ 2015」を開催。ひがふな SHOW 展街は、運営事務局と協力し、準備、当日運営を行った。		

2. 連携団体について

連携団体①	名称	ひがふなフェスタ運営事務局
	活動内容	JR 東船橋駅を利用する多くの学生、社会人などの方に対して、駅を中心とした動線の防災・防犯の強化及び東船橋の魅力を幅広く認知してもらう。 昨今、稀薄となりつつある地域住民の横のつながりとして、安心、安全、健全な街づくり、豊かな街づくりを目的とした運営組織。
連携団体②	名称	ひがふな委員会
	活動内容	会員の緊密な連携により運営され、東船橋地区の活性化及び振興をはかる事を目的とし、以下の事業・活動を主とする。 ・地域活性化に繋がるイベントの企画 ・「ひがふなフェスタ運営事務局」への指導、監督、助言 ・東船橋駅周辺の環境改善に資する事業 ・地区内の共通問題の解決に関する事業 ・関係団体公官署と連携・交渉に関する事項 ・その他、目的達成に必要な事業
連携団体③	名称	ひがふなフェスタ運営事務局協賛会
	活動内容	東船橋駅地区に強い愛着をもつ企業・個人で組織し、「ひがふなフェスタ運営事務局」の活動を援助・応援する。

3. 実施事業について

背景	地域住民の横のつながりとして、安心・安全な街づくり、豊かな街づくりを目的とし、駅を中心とした動線の防災・防犯の強化をはかるとともに、東船橋の活性化及び振興につなげる。 ひがふな SHOW 展街は、運営事務局のバックアップ団体とし、円滑に事業を進める。
目標	開催エリアの拡大により、昨年倍となる延べ来場者目標を 1 万人とし、より多くの方々に東船橋の魅力を訴求したいと考えている。

内容	平成 28 年 10 月 1 日（土）で 35 周年を迎える JR 東船橋駅南口ロータリー及び周辺道路等を利用して「ひがふなフェスタ 2016 東船橋駅誕生 35 周年記念」を開催する。 当イベントでは、昨年の「ひがふなフェスタ 2015」同様、運営事務局を中心に企画を進め、東船橋駅を生活動線に利用している地域住民、通勤、通学利用者など多くの方々に東船橋の魅力を伝えていく。 イベント会場に設置されるステージでは、地元の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、各スクールの演奏、ダンス等の発表や、千葉ロッテマリーンズなど千葉県の象徴ともなる催しを開催するとともに、ロータリー等に地元企業、学校保護者、商店などの飲食の出店を設置し、来場される小さなお子さまからお年寄りまで多くの皆さまにゆっくりと楽しんで頂く。 また、運営事務局は、インターネットを活用し、当イベントの告知をはじめ、地域住民、地権者、学校、学校保護者、企業、商店の「地域活性化の活動スタイル」を全国に発信するため、公式ホームページ、SNS（Facebook）にも力を入れる。
スケジュール	●平成 28 年度 ・5 月 設立総会 ・6 月～9 月 イベント開催準備 ・10 月 「ひがふなフェスタ」開催
実施体制	組織図 その他、小・中・高の学校、学校保護者、消防団、宮本自治会連合会、地域の有志等とも協力していく。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	●金券の発行 当日及び11月末日まで利用できる500円チケットを協賛企業様の販促、または地域住民に750枚を配布。当日及び期間内に回収は585枚。回収率83%。  ●JR東船橋駅南口に収益金からLED電灯1灯を設置 
反省点・ 苦労した点	★イベントを成功させるためのポイント点①★ 『地域ボランティアの皆さんに感謝！』 地域に住まう生活者、特に学校保護者(現役、OB含む)のボランティアの方々のご協力なしにイベントの開催は厳しいものです。当日のボランティアの皆さんは約120名にのぼり、殆どの方々は仕事をされている現役社会人の方々なため、当日オペレーションを含む、役割、事前説明は苦労したと言えます。また、ボランティアの方々にはブルーTシャツをお配りし、開催中における事故、事件、救護をより素早く対応できる工夫も行いました。  ●来場者数：目標 10,000 名 → 8,000 名(延べ) 昨年より 3,500 人 UP ●事故・事件：0件 ●遺失物・拾得物：2件(携帯電話1、通勤定期券1/2件とも解決済) ●来場者クレーム：0件 ●トラブル：0件 ●運営上トラブル：1件(雨天による発電機の故障) ●運営上の紛失：横断幕1、テーブル1

★イベントを成功させるためのポイント点②★

『学校、自治会、地域ボランティアの皆さんに感謝！』

当日の雨天対策として、来場される多くの皆さまを配慮し、通行止め区間の歩行・飲食スペースに大型 TENT を設置しました。この TENT は、宮本自治会をはじめとする多くの自治会保有 TENT、そして近隣学校の TENT を無償でお借りしました。お借りする上での相談。そして何より前日の搬入作業、当日終了後の撤去作業には、多くのボランティアの方々のご協力を得ることができました。



★イベントを成功させるためのポイント点③★

『東船橋駅前ロータリーを封鎖せよ！』

これまで駅開業 34 年間、一度も行われてきてこなかった駅前におけるロータリー封鎖イベント。昨年、駅南口ロータリーから駅を通じる大通りを 8 時間に及ぶ通行止めを行いました。この通行止めには、駅ロータリーを利用するバス、タクシー、教習所、幼稚園バス、ロータリー付近の飲食店等の搬入業者様など、すべての方々の協力を得て実現しました。また、駅前を管轄する船橋警察署に、徹底された指導（通行止め時間の制限、事前告知、交通誘導員（ボランティア、警備員）の配置、アナウンス方法等）を受け、それを事件・事故なく円滑にまわせました。



今後の
事業展開

「ひがふなフェスタ 2017（仮称）」の準備、着手に入り、5 年、10 年、20 年と東船橋発展のために永続していく。

習志野台商店街振興組合
きたなら元気！

1. 実施団体概要

商店会名	習志野台商店街振興組合		
所在地	船橋市習志野台 2-6-11		
設立年月日	昭和 60 年 3 月 29 日	会員数	44 人
最近の活動	商店街では買い物の場としての機能を強化し、身近に感じていただけるよう心がけ、各種のイベントを積極的に展開してきた。 平成 23 年に、地域商店街活性化法認定（計画名「快適でエコに配慮したアーケードへの改修及び個店の魅力向上による感動商店街づくり事業」）を受け、国や市の補助金を活用し、「一店逸品運動による個店の魅力の向上」、「地域との連携による食育フェスタの実施」、「アーケードの改修による快適なイベント空間の確保」、「高齢者の休憩スペースの確保」の4つの事業の実施。そのほか、組合員のアンケート結果を踏まえた情報発信事業を実施。 地元に住む方々・商売をする方々が「見て・感じて・動ける」商店街を目指し活動をしている。 【主な活動内容】 ・ポイントカード事業 ・ハロウィンイベント（近隣商店会と連携） ・花壇の植替え ・アーケード改修事業 平成 23 年度（国 中小商業活力向上事業） ・放送設備のリニューアル 平成 ・一店逸品運動（平成 23 年度～平成 26 年度） ・こだわり宣言（平成 27 年度～） ・食育事業（平成 23 年度～）		

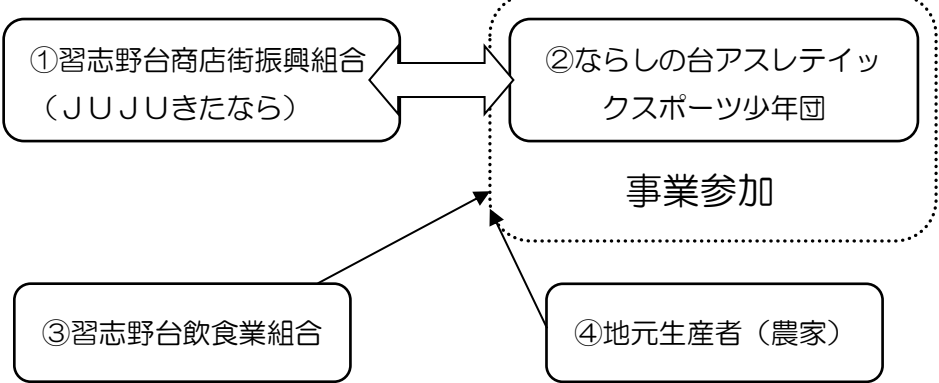
2. 連携団体について

連携団体	名称	ならしの台アスレティックスポーツ少年団
	活動内容	・他のスポーツ団体との交流 スポーツテスト ・その他、マラソン大会、餅つき大会、クリスマス会、二宮神社初詣、スケート教室、キャンプ、二丁目町会夏祭りなど。

3. 実施事業について

背景	（１）地域の特徴 北習志野駅前に立地する片側アーケードの架かった商店街である。地域内 4 商店街が連携を図りながら年間通して各種の地域イベントを実施しており、全蓋アーケードの架かった JuJu 広場がイベントの会場となっている。 （２）周辺地域の概況 2 つの鉄道の結節点として 10 年程前までは人口が急増したが、現在は微増程度。北習志野駅周辺 1 キロ圏には 4 万人を超える居住者がおり、その購
----	--

	買力をターゲットにした各種大型店が周辺部に数多く進出している。駅前地区は2鉄道駅利用者がそれぞれ約2万人ずつおり、商店街内は1万人以上の歩行者で賑わいを見せている。また、飲食を中心とした大手チェーン店の出店が多く、空き店舗はない。 (3) 来街者の概況 日中は、地域住民が多く、夕方近くになると学生の姿も目立つ。朝晩は、交通アクセスの利便性から通勤者の利用が目立つ。 (4) 地域住民のニーズ 商店街区内周辺地域では、新興住宅地が増え、商店街に対する関心度が低い状況にある。また、過日の震災以降、地域コミュニティの核として、商店街が中心となり、安心・安全な環境づくりや地域との協働による子供の地域参画の促進が求められている。 (5) 課題・問題点 これまでは、近隣住民を対象とした店舗が立ち並び、地域に密着した商店街として賑わってきたが、新興住宅地の増加に伴う周辺地域の住民構成が変化しつつあり、若いファミリー層にも対応した商店街活動が求められている。 (6) 事業目的 地域の子供たちや関係者等、住民の団体と連携した事業を実施する事で、地域のニーズや課題解決へ繋げる事を目的とする。本事業を通じて、地域との繋がりを強くし、商店街を歩く人や各お店に買い物するお客様を増やす。
目標	(1) 歩行者通行量 基準値 10,488 人（平成 28 年 3 月 18 日調査） 目標値 10,593 人 (2) 売上高 基準値 6,577 万円（平均高）（平成 28 年 3 月 31 日調査） 目標値 6,643 万円（平均高） ※ 地域内の子供たちとの協働参画を強め、若いファミリー層にも対応した商店街活動を実施する体制を整えたい。事業実施後も、継続した商店街活動を通じ、商店街区の通行量と売上高の増加を目標としたい。具体的には、通行量・売上高共に基準値から 1%増加した数値を設定している。
内容	(1) 食育事業 ならしの台アスレティックスポーツ少年団と連携し、地元飲食業組合や地元農家の協力も得て、地域の子供を対象に生産・流通・商業者体験を通じた食育事業を実施する。 (2) イルミネーション事業 商店街のイメージアップと地域との連携を強化する事を目的に実施。 【イルミネーションの内容】 (A) 商店街区内のアーケードを活用したイルミネーション（21基） アーケードにイルミネーションを設営し、華やかな空間に変身させる。 (B) 環境に優しいリサイクル品を材料としたイルミネーション（5基） 地域の子供や住民を対象に、JUJU 広場にリサイクル品を材料としたイルミネーションを設営し、鮮やかな光と環境に関する啓発を促進する。

	(3) きたなら元気事業 商店街と地域の子供や住民との交流を目的に実施。連携団体からは、スタッフとして参加し、会場に設営するアトラクションにも協力参加してもらう。 事業内容 ① 参加者に「きたなら元気参加証」を配布する。 ② 参加者が「目印」を付けている方（商店街の方）に合言葉を掛ける。 ③ 「参加証」にハンコを押す。 ④ ハンコが貯まった参加者に特典をプレゼントする。 【新規の要素】 ・食育事業 新規の要素として、生産から流通・販売まですべての流れを体験してもらうことで食育と社会の仕組みや商店街の取組等について発信する。 ・きたなら元気事業 今回は新規の要素として、商店街区の隅々まで廻って頂く事で、商店街の事を知って頂き交流をもつきっかけにしていく。
スケジュール	9月 全体事業打合せ 生産体験、市場見学 10月 勉強会 11月 商業者体験 イルミネーション製作・設置 11月下旬 点灯（平成29年1月まで。2月撤去） 12月～ きたなら元気企画打合せ 3月 きたなら元気準備・実施 事業精算・実績報告書提出
実施体制	 ①② 実施団体 全ての事業において、連携を取り実施する ③④ 食育事業支援（食育の講習会・商店街活動協力） 【商店街実施体制】 代表理事が全体の統括をし、副理事長、専務理事が事業の実施担当となり、事業の実施体制・進捗状況については、役員会を通じ役員・組合員へ伝える。 なお、事業の企画段階から、連携団体も会議に参画する。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	お客様が商店街を歩き、お店の人とふれあい、また景品には商店街のこだわり宣言のお店の品物を出すことにより、商店街のアピールができたのと同時にお店の認識を新たにさせていただくことができた。 また、商店街の人もたくさんの人とふれあい、直接、話をする事ができる良い機会になった。 イルミネーション事業については上品なものができた。今後さらに改良していきたい。
反省点・ 苦労した点	お客様が5～6人まとめてお店にきてしまうので、忙しい時間と重なったお店には申し訳ないと思いましたが、参加者とのハイタッチを快くしていただいた。
今後の 事業展開	会員の方も、地域の方も楽しみにしていただいているので、事業終了後は、連携団体との事業を振り返り、良い点や課題を確認し、継続した事業を行えるよう定期的な会議を開催します。

船橋フェイス商店会×NPO法人情報ステーション
～文化と商業の融合を目指す共同事業～

1. 実施団体概要

商店会名	船橋 FACE 商店会		
所在地	船橋市本町1-3-1 フェイスビル12階		
設立年月日	平成15年4月17日	会員数	44人
最近の活動	大型モニター「デジタルサイネージ」を館内に設置。 CS調査（顧客調査）を実施して、各店の販売力を高めるための活動を実施。 毎月10日はフェイススマイル DAY として抽選会を、地下1階の会場で実施。		

2. 連携団体について

連携団体	名称	NPO法人情報ステーション
	活動内容	・地域住民の交流拠点となる民間図書館の設置、運営 ・イベント、催し、団体の運営サポート ・クラウドファンディングサイト「FAAVO千葉」の運営 ・市民大学「船橋みらい大学」の運営

3. 実施事業について

背景	船橋フェイス商店会はフェイスビル完成と同時に設立し、船橋駅を利用されている方々に便利で楽しい商業施設を目指して活動をしている。 しかし、5月に実施したWEB調査の結果を見ると、建物の様相からフェイスビルが“オフィスビル”“市役所のビル”と思われており、商業があることの認知度が低く、PR活動が今後の最優先課題であると感じている。 そこで、フェイス内に日本一小さい図書館を運営している「NPO法人情報ステーション」と組み、様々なイベントを開催することや、組織力を活かした宣伝活動をする事で、船橋フェイス商店会の知名度向上と集客を図っていきたいと考えている。 開催時期は、「読書の秋」ということもあり、10月を予定し、目玉企画として船橋市が誇る作家「森沢明夫氏」にフェイス内にある「きららホール」において船橋で過ごした青春時代を語ってもらい、また本を読む楽しさやその本が映画化されることについての講演会開催を検討していく。
目標	文化催事を始め集客施策を実施することで、船橋フェイス商店会への誘客・活性化を図り、開催月(10月)の売上前年比101%を達成する。

内容	昨今の消費者は単に物を買うだけではなく、同時に学びたい意欲もあるので以下の事業を通じて集客を図り、フェイス商店会の活性化を目指す。 【森沢明夫氏 講演会】 「きららホール」にて船橋市出身の森沢明夫氏を迎えて講演会を実施し、本を読む楽しさや船橋で過ごした青春時代・作品の映画化・作家として新たな地位を確立された体験談などを語ってもらう。 講演終了後は、フェイス商店会のイベント情報やフェイスで利用できるクーポンを渡すなどして、商店会の売上アップを図る。
スケジュール	平成28年7月 フェイス商店会及び情報ステーションとの共同事業発足 平成28年8月 ポスター、チラシ制作、掲示 平成28年10月 森沢明夫さん きららホールでの講演会
実施体制	NPO法人情報ステーション + フェイス商店会の活動 NPO法人情報ステーションの組織力を利用しながら、今までフェイスを知らなかった人に商店街のクーポンチラシの配布など、商店街の認知度の向上や、売上の向上に協力してもらう。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・良かった点	文化催事を始め、集客施策、実売につながる施策を実施することで船橋フェイス商店会への集客、活性化を図ることができた。特に船橋で有名人が来るとのことで電話等の問い合わせも多く、フェイスビルの知名度の向上にも繋がった。また売上についても10月度は昨年対比を超えることができた。
反省点・苦労した点	きららホールの定員が260名に対し、9月末の時点で応募数が300人を超えたため、応募は締め切った。260名に当選通知を送付するが、当日のキャンセルなど見越すと何名に当選通知を送ったらいいいのか、非常に迷った。一般的には有料コンサートでも入場券は一割増しで発行するとのことであった。 さて、無料の講演会では二割増しにすべきかどうか、悩んだ結果、260名に当選通知を送付し、残り40名の方にはキャンセル待ち通知として送付することになった。 当日、約40名ほどのキャンセル待ちがロビーに待機することになったが、本当にこの人数が入ることが可能かどうか。心配であった。当選全員が着席後、空席も出たため、キャンセル待ちの方全員が会場へ入れることができた。 終了後の本を買われる方も多く、また、アンケートにも協力していただき、盛況に終了できた事は感慨深いものがあった。
今後の事業展開	今まで、商店会として文化催事を企画したことがなかったが、アンケートなどでも非常に好評であった。今後も船橋市民に愛される内容を考えていきたい NPO情報ステーションとは同じフェイスビルに拠点があるにも関わらず協力し合うことがなかったが、彼らの持つ地域ネットワークや若い活力に驚いた。こうした活動を機に今後も共同で事業展開できるがあれば、情報ステーションや他の団体などとも協業していきたい。 また、今回のイベントの成功についてはNPO情報ステーションに敬意を表したい。

北部地区商店会連絡協議会
北部商連ドリームスクラッチ

1. 実施団体概要

商店会名	北部地区商店会連絡協議会		
所在地	船橋市二和東 6-16-10		
設立年月日	平成 8 年 3 月 28 日	会員数	125 人
最近の活動	H27.7 二和向台商店会 市民まつり実施 三咲中通り商店会 三咲夏祭り実施 H27.8 二和中央商店会 納涼盆踊り大会実施 三咲本通り商店会 納涼盆踊り大会実施 H27.12 北部地区商店会連絡協議会 ドリームスクラッチ実施		

2. 連携団体について

連携団体	名称	JA 市川 豊富支店
	活動内容	信用事業、共済事業、営農指導・相談・販売・購買など。 取扱い商品として、「防災船橋人参パン」及び「梨ウォーター」を販売している。 今回は、経済活動の一環として当協議会のイベントに商品の提供を依頼した。

3. 実施事業について

背景	現在、景気の衰退と大型店の出店により、商店の閉店など近隣商店会も悩まされており、単独でのイベントの開催が人的にも経済的にも困難な状況に追い込まれている。 本事業を通して、現状の打破と個人商店の良さを顧客に一段の認識を深めてもらいたいと考えている。
目標	合同イベントの実施により、人的・経済的に節減の効果が大きいと思います。また、商店間での顧客情報の提供により販売の増加が見込まれる。 また、防災の観念と地域の生産品である梨を、新しく住民になられた方々に広く知ってもらおう。 ・参加店 55 店舗 ・販売セット数 168 セット

内容	「歳末大感謝祭 ドリームスクラッチ」事業を実施する。 実施期間中に、買い物時の特典として、700 円以上の買い物をするとスクラッチカードを 1 枚進呈。カード削って、当選したらその等に応じた景品や商品券をプレゼントする。 また、JA 市川とタイアップし、地産地消と防災に重点をおいての景品の提供をおこなった。
スケジュール	H28.7～9 プランの協議 H28.10 会員要綱のお知らせと参加店の募集 店頭配布用チラシ・ポスターの作成 H28.11 店頭配布用チラシ・ポスター、地域新聞等の広告宣伝 H28.12 スクラッチの実施 H29. 1 清算
実施体制	会長を中心に、二和向台商店会、二和中央、三咲中通り、咲が丘南部の各商店会からそれぞれ 2 名の代表者により、月 1～2 回の協議を行い事業を進めた。 換金を含めた清算等は各商店会毎に行い、本部会計が各商店会より提出されたデータにより換金業務を行った。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	地域の商店会が連携した事業として、店頭ポスターや 1 か月前から参加店でのチラシの配布等情報発信の効果があり、実施期間では新規の顧客の来店があった。 また、スクラッチカードの販売額は前年比 5%増となった。 回を行う毎に、近隣住民及び販促を実施していなかった商店会、また、参加商店会の会員にも認知され、歳末の販促活動に活気が増し、顧客との会話も増えた。物販業にも関わらず、飲食店でも顧客同士の会話が弾んでいた。 事業を通して、参加店それぞれの商業意欲と商店会活動・地域間の連携強化に繋がったと考えている。
反省点・ 苦労した点	音響効果的なものが利用できれば良かった。
今後の 事業展開	スクラッチカードをメインにして、次年度は、障害者の助けになる様な事業も組み入れ再考していきたい。 例として、障害者施設で生産した商品の販売・PR をしたいと考えている。

船橋市前原商店会
子供たちとつくる Xmas ～Xmas オーナメントコンテスト～

1. 実施団体概要

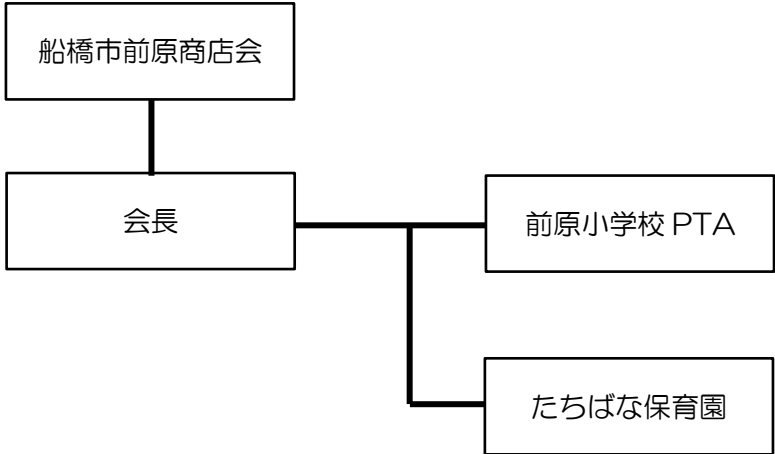
商店会名	船橋市前原商店会		
所在地	船橋市前原西 2-21-10		
設立年月日	昭和 27 年 4 月 1 日	会員数	73 人
最近の活動	フラッグ広告、津田沼駅前の防犯カメラの設置・管理、駅前歩道花壇整備、 防犯パトロール、掲示板管理 ≪年間継続事業≫ 1 月 賀詞交歓会 6 月 前原商店会杯 ソフトボール大会 7 月 津田沼ふれあい夏祭り 10 月 つだぬま〜る 12 月 クリスマスコンサート		

2. 連携団体について

連携団体 ①	名称	船橋市立前原小学校 PTA
	活動内容	PTA 会員による学校の維持（清掃活動）や地域交流（市民の会主催のパトロール、地域商店会の夏祭りへの参加）
連携団体 ②	名称	社会福祉法人 長春会 たちばな保育園
	活動内容	保育事業・地域子育て支援事業

3. 実施事業について

背景	かつて津田沼駅前には子供たちがおり、駅前の商店でお菓子や惣菜などを買って、神社や空き地に集まり、日暮れまで遊んでいた場所があった。そして、その光景を見守る大人の目があり、商店会と子供たちの間には「接点」があった。 現在は、津田沼駅前には時代の流れと大きな開発によって、立派で大きな“街”へと発展し、船橋市の人口も増加し続け、前原地区は子育て世代も多くなっている。 一方で、学習塾へ通う姿の子供たちを見ると、津田沼駅前は、子供たちにとって“通りすがりの街”になっていると感じる。 私たち、船橋市前原駅前商店会は、今事業を企画・実施することで、かつての商店会と子供たちの間に存在した「接点」をもう一度取り戻したいと考える。
----	---

目標	・津田沼駅前クリスマスイベントを一緒に作り上げることで、商店会と子供たちの「接点」を作ること。 ・子供たちの親と一緒に津田沼駅前を回遊してもらうこと。 ・結果として商店会会員の本事業発展に寄与すること。
内容	小学生を対象に「手作り Xmas オーナメント」の飾り付け、コンテストを行う。 【オーナメントづくり】 ・テーマ「将来の夢」にまつわるオーナメントを作成。 ・材料は、牛乳パックやペットボトルなどの廃材をメインに使用する。 【飾り付け】 ・各商店会員の店舗前に、クリスマスツリーを設置。そのツリーにオーナメントを飾り付ける。 【コンテスト】 パルコ津田沼店の展示ブースにてそれぞれの作品を展示し、商店会員による審査、表彰（例：最優秀賞・各学年の表彰など）。 ※ 津田沼駅前通りの街路樹若しくは街路灯で電飾によるクリスマスイルミネーションで華やかに事業を盛り上げると同時に、津田沼駅前に親子や多くのお客様を呼び込み、商店会会員店舗の集客と売上の向上につなげていく。ツリーを飾る店舗では割引や粗品等のセールやサービスを実施する。 【新規の要素】 クリスマスコンサートでは、開催会場やステージ出演といった「点」でのイベントと異なり、津田沼駅前通りで「面」でのイベントになる。地域の子供たちとの事業であり、商店会員だけでは、本事業は成立しない。
スケジュール	7月 前原小学校 PTA、中野木小学校 PTA、たちばな保育園の生徒・園児へ参加者尾募集を行い、オーナメント作成の協力依頼。 9月 各小学校、保育園にクリスマスイベント参加の告知 10月 手作りオーナメント 回収 11月19日～12月25日 飾り付け 翌1月 パルコ津田沼店にてコンテスト展示 商店会員（可能であれば、一般審査も検討）による審査・表彰
実施体制	 <pre> graph TD A[船橋市前原商店会] --- B[会長] B --- C[前原小学校 PTA] B --- D[たちばな保育園] </pre>

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・良かった点	地域の子供たちとの「ふれあい」、「コミュニケーション」等の構築ができ、この事業の目的でもある、商店会と子供たちの間に存在した「接点」を作り上げることができました。 クリスマスツリーを設置した店舗では手作りオーナメントを探すため、足を止めるお客様が多数おり、津田沼の街が「明るく、きれいになったね」という声が多く聞こえました。中には、自分たちで作成したオーナメントも飾ってほしいと依頼してきたお客様もいました。 また、ツリー設置店舗の売り上げは、平均で対前年の同月と比べ約 10%増となり、売上向上にも効果がありました。
反省点・苦労した点	ツリーを設置した店舗のそれぞれのツリーが、比較的、似たようなツリーになってしまった。
今後の事業展開	パルコ津田沼店での展示を通じて、船橋市前原商店会を PR していく。 また、参加した子供たち（小学校高学年）とその親を対象にアンケートを行い、翌年以降の継続事業として活用していく。 その他、ツリー設置店舗を増やすとともに、利用客へのイベントやサービスの事前告知を強化し、売上向上へつなげたいと考えております。

アイラブふなばし実行委員会
夢ふるふなばし

1. 実施団体概要

商店会名	アイラブふなばし実行委員会		
所在地	船橋市本町 7-1-1 (株)東武百貨店船橋店 総務部内		
設立年月日	昭和 55 年 4 月 1 日	会員数	7 商店会・5 大型店企業・2 その他
最近の活動	・船橋駅周辺地域のゴミ清掃活動（月 1 回） ・小学生の商業者体験（平成 21 年～） ・商店会マップ製作（平成 19 年、22 年、26 年） ・イルミネーション事業（平成 19 年～） ・職場体験の受け入れ（平成 21 年～） ・中元、歳末売出し活動 ・コンセンサスの形成（H26 年） ・訪日観光対策事業（英会話教室、モニター調査 H27～）		

2. 連携団体について

連携団体①	名称	船橋市立船橋小学校
	活動内容	入学式・卒業式 子供神輿や山車（船橋市民まつり） 運動会
連携団体②	名称	船橋市立船橋高等学校
	活動内容	入学式・卒業式 現場実習（商業科） 文化祭 体育祭

3. 実施事業について

背景	（１）委員会について 船橋駅周辺 7 つの商店会・大型店・企業で構成する団体として、地域周辺の環境を整備し、同地域の振興に寄与することを目的に掲げ、商店会と大型店の共棲を図りつつ事業を推進する。 （２）周辺地域の概況 街区内、徒歩圏内に 2 つの百貨店や大型スーパー、飲食店などがあり市内屈指の繁華街である。周辺地域は、都心へのアクセスも良くベッドタウンとして近年高層マンション建設が増加しており人口は微増傾向にある。 （３）来街者の概況 朝・夕方の通勤、通学者等駅利用者の多くが商店街を通行し、日中は、周
----	---

	辺地域の住民が買い物時に通行している。また、徒歩圏内に市役所や多くのオフィスがあり会社員の姿も目立つ。小売業の顧客層は、多くは地域住民で構成されており、新しく住んでいる住民が近年増加している。サービス業の顧客層は、地域住民の他、会社員や学生の姿も目立つ。 (4) 地域住民のニーズ これまでは、商店街と大型店・企業が共棲する商業環境を維持してきたが、近隣地域でショッピングモールのオープンやリニューアルが続き、マンション建設による新住民が増加し、環境が大きく変わりつつある。また、専門家によるアドバイスのもと、アンケート調査を通じたコンセンサスを形成。街区内における課題解決に向けた取組みとして、「地域の子供達と連携した活動の推進」が求められており、地域協働事業や地元と連携した活性化事業が新住民や来街者にも対応した事業展開に繋がると捉えている。 (5) 事業目的 地域の課題やこれまで実施してきた事業を振り返り、地域・近隣の子供や関係者との連携を密接にする事業を計画・実施する事が課題解決に結び付ける事ができると考えている。事業を通じて、地域との繋がりを強くし委員会、各商店会の活動を発信し、船橋駅周辺地域の回遊と商店街・各お店の来店者向上を目指したい。
目標	(1) 歩行者通行量 基準値 52,618 名 目標値 52,102 名 (2) 空き店舗数 基準値 12 店舗 目標値 10 店舗 ※ 各店舗の来店者向上として基準値から 2%増加を目標としたい。本事業の実施と並行し、地域内の商店会と連携した個店の魅力向上事業を実施させる事で商店街に新たな顧客増加を図り、歩行者の増加につなげる。空き店舗数は、歩行者通行量の増加に伴う商店街区内の購買機会等における魅力向上が図られる。目標値として、基準値から空き店舗 2 店舗減少で設定。地域内空き店舗ゼロを目指す。
内容	船橋駅周辺の複数箇所に、イルミネーションを飾り、地域住民や来街者へ明るく彩りのある雰囲気を提供し、地域・商店街のイメージアップを図る。 イルミネーションの一部は、地元小学生や地域の子供達、市立高校生と連携して制作したオーナメントを飾る。付随イベントとして点灯式その他、点灯期間中に、ライブイベントの開催や点灯したイルミネーションと商店街を回遊する「イルミネーションツアー」を開催する。 事業を通じ、船橋駅周辺地域の住民や歩行者、来街者に対し、委員会・商店街の活動と各お店の情報を発信し認知度と地域の回遊向上を図る。また、委員会事業として今後個店の魅力を向上する事業（街のゼミナール）を開催する計画があり、各商店街・お店の来店・固定客の増加へと繋げる相乗効果

	を見込んでいる。 【新規の要素】 近隣小学校や関係者、市立船橋高校が連携団体として、オーナメント製作に参加し、次世代の方を中心に、幅広い世代が参加する地域協働によるイルミネーション事業を実施する。周知についても、地域の方々と協働し多くの方に発信する要素も新たな取組である。また、船橋新駅ビル工事の仮囲い箇所新たなイルミネーションを設置することで駅前全体がイルミネーションの光に囲まれる。
スケジュール	9月 連携団体と事業の打合せ 10月 イルミネーションオーナメント講座 11月 イルミネーション設置 点灯式（中旬） ※点灯期間 平成29年1月末まで 12月 ライブイベントの開催（船橋FACE 連絡通路） イルミネーションツアーの開催 イルミネーションの一部撤去・リニューアル 1月 イルミネーション点灯終了 2月 イルミネーション撤去 連携団体へ事業の終了報告 3月 事業決算・報告書の提出 連携団体と事業の振り返りと今後の計画について打合せ
実施体制	1. 市立船橋小学校 アイラブふなばし実行委員会 2. 市立船橋高等学校 ➡ 事業実施体制について 1、2の連携団体と、イルミネーションの飾り製作について連携する。尚、事業の周知や飾りの設置等についても協力体制を計画している。 組織内事業実施体制について 会長が事業を統括し、実施担当、広報担当を各副会長が担当する。事務手続きや運営を理事・事務局がフォローする。役員会で事業の進捗や実施体制について協議し、役員を中心に全体で事業の実施・フォローを行う。

4. 事業の様子





5. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	船橋駅の玄関口として、街の顔としての役割を担っている。 組織内の親睦を計れたこともこの事業の成果として大きかった。 新規の要素として、小学生にオーナメント作成を依頼したが、親子で飾りを見に来ており、地域を巻き込んだイルミネーション事業となったと考えている。
反省点・ 苦労した点	苦労した点として、事業を継続する上で新規の要素や工夫点を考えることが非常に難しかった。 また、会員の資金面での負担も苦労した点としてあげられる。
今後の 事業展開	事業終了後に、委員会役員・関係者とミーティングを開催する。事業を振り返り課題や反省点を絞り出す予定である。 連携団体へ事業の結果を報告し、来年度以降も活性化に向けた事業を継続するために協力依頼をする。資金の手当ては、委員会事業費として毎年度予算を立て、継続実施できるような予算組みを実施する。 連携団体が各教育機関と成るため、学校関係者との連絡を密にする体制を委員会内で整える。

芝山団地商店会
関東初！芝山リアル人生ゲーム

1. 実施団体概要

商店会名	芝山団地商店会		
所在地	船橋市芝山 3-10-2-107		
設立年月日	昭和 52 年 3 月 31 日	会員数	16 人
最近の活動	・100 円商店街（平成 24 年より 10 回開催） ・愛の芝山祭（選挙来場者証持参の方に特典を付けるイベント） ・ランタン飾り（地域の子供が描いた絵をかぶせたランタンをお店に飾る） ・ハロウィンイベント@芝山団地商店会※地域団体との連携協力イベント ・宅配サービス事業（商店街で買い物をした人を自宅まで宅配する） ・駐車場の提供		

2. 連携団体について

連携団体	名称	NPO法人コチカラ・ニッポン
	活動内容	子どものチカラで、企業や地域、家庭などが輝く。仕事や家庭の場で大人に役立つことを通じて、子どもは伸びていく。この「子どもと大人の双方向性」により、“実践を伴った子ども教育”と“企業や地域などの発展”という2つを同時に達成することを目的とする。

2. 実施事業について

背景	（１）商店会の特徴 京葉高速鉄道飯山満駅より徒歩5分、芝山団地（UR）にある商店会。生鮮3品を中心とする物販のほか、飲食・サービス業の会員で構成している。日々、団地の住民を中心に、地域住民の生活を支える。 （２）周辺地域の概要 芝山団地敷地内に、市役所の出張所・郵便局・金融機関・保育園・近隣に小・中・高校があり生活の利便性は高い。4年前、近隣に中型スーパーが出店。同年末に、隣接するスーパーが閉店するなど商業環境は厳しい状況が続いている。 （３）来街者の概況 朝・夕方はサラリーマンや学生の姿が目立つ。日中は主に、近隣住民が通行している。商店街は、車が入らないため子供連れなどが停留する姿が目立つ。 商店会では、これまで会員や関係者から協力をいただき、100円商店街を中心に様々な独自計画を行ってきた。近くの高校生や子供教育の団体と連携した活動を行い、良好な関係を築いている。その結果、商店街の活動に理
----	---

	解してくれる方も増え、各お店が努力した結果、買い物に来る方も少しずつですが増えてきたと思っている。 4年前に、商店会の向かいにあったスーパーが撤退した際、たくさんの手紙をいただいた。そこには「初めてお使いした思い出の場所」や「子供が初めてお使いした場所」といった声がたくさんあった。昔から商店会は子供を育てる場と言われている通り、買い物だけではなく、社交場・遊び場・社会を体験できる場所として存在していた。 商店会では、地域の子供たちに思い出が残る企画を行うことで、子供やその家族、周りに住む方々が今一度商店会の良さを知っていただくことで、商店会を歩き、買い物をする永続的な課題解決になると考えている。 (4) 事業の目的 地域の子供や住民に商店会の良さを伝え、商店会を歩き買い物をする人を増やす。あわせて商店会のメンバーや、連携団体・協力者との結びつきを強くする。
目標	事業を通じ、商店会に訪れる人が増えることを目指し「通行量調査」を事業実施前と実施後に行う。 目標値として、事業実施前と比べ3%の増加を目指す。
内容	子供教育に団体と連携し、関東初の「リアル人生ゲーム」事業を実施する。 リアル人生ゲームは、島根県出雲市で生まれた地域活性化の事業。内容は、実際の商店街を『人生ゲーム』のボード盤に見立て、実際にゲーム参加者が商店街を散策し、「街と人」、「店と人」、「人と人」に新しい出会い・ふれあい・縁を創造していくイベントである。 ゲームの流れを人生に例え、マップ（ボード盤）作成、ゲームを演出するストーリー決定でイベントに参加する店舗（マス）は「自分らしさ」を込めた“人生における出来事”の内容を考えていただく。その際、各お店が自店を振り返り「強み」や「特徴」を再認識し、現在の営業を見直すきっかけになればとの狙いがある。 またゲーム参加者には実際に街を歩き、今まで知らなかったお店を訪れ、商品やお店の「強み」や「特徴」に触れることにより新たな発見が生まれ、購買につなげる狙いもある。 この出会いにより「街」「商店」の魅力を再発見し、購買を促し、商店街を基盤とした地域経済の持続的発展を図る。 「街と人」、「店と人」、「人と人」の新しい出会い・ふれあい・縁を創造する仕掛けをすることがこのイベントの最大の目的となっている。 事業を通じ、参加者や周辺の住民へ商店会の良さを知ってもらうことで、商店会や各お店の接点を増やす。その後、他の商店会活動や各お店の営業努力によりお店・商店会の永続的な繁栄を目指す。

スケジュール	8月 専門家による勉強会（人生ゲーム事業について） 9月 100円商店街実施 通行量調査実施 2月 人生ゲーム開催 3月 100円商店街実施 通行量調査実施 来年度事業企画について打ち合わせ ※ 連携団体との打ち合わせは、平成28年8月より毎月実施する予定。打ち合わせ時に事業の進捗・連携内容の協議を行う。
実施体制	芝山団地商会 NPO 法人コチカラ・ニッポン 近隣の高校生がイベントスタッフ等事業の協力 商店会とNPO 法人コチカラ・ニッポンが連携し、近隣の高校生が事業の協力をする。 商店会体制では、会長が全体を統括し、副会長が統括補佐。役員を中心に各事業を実施する。なお、事業の進捗は役員会で報告・運営の協議を行う。

3. 事業の様子





4. 事業を振り返って

事業効果・ 良かった点	事業を通じて知り合いが増え、お客様から声をかけられることが急増した。 百円商店街事業と同様にはなるが、ゲームに参加する際に、店の中に入ってもらうことで実際に店を知ってもらうきっかけになった点が良かった。 また、教育委員会にも後援をいただき、近隣の小中学校にチラシを配布し、子どもたちがお金の使い方を覚えたり、地域の店舗との交流を図ることが出来た。
反省点・ 苦労した点	準備段階から商店会内での調整が大変だった。
今後の 事業展開	今回の参加は30店舗程度だったが、今後事業を定着させ50店舗位以上の出店を集めたい。 また、参加者にアンケートを取ったところ満足と答えた人が多かったが、今後は“非常に”満足の回答100%を目指していきたい。